

大腸がん検診のお知らせ

検査室だより 2026.4

今回は、堺市のがん検診『大腸がん検診』についてお知らせします。

大腸がんは、その名の通り大腸に発生する悪性腫瘍です。

早期の場合はほとんどが無症状であり、進行癌となって症状（血便、便通異常、腹痛など）が現れます。

年齢別にみると、大腸がんは40歳あたりから増え始め、50歳以降あたりから80歳代まで大きく増加し、男女を合わせた総数で最も割合が高いがんとなっています。1975年当時1.8万人と推計されていた罹患数は、その後右肩上がり増加を続け、2020年ころには15万人を上回る数になっています。（国立がん研究センターのデータによる）

予防の観点から、喫煙や飲酒など、生活習慣や嗜好で大腸がん罹患のリスクが増加することが明らかな要因を避けるのはもちろん大事ですが、大腸がんは便潜血検査によるがん検診の有効性が確認されています。上述したように大腸がんの早期はほとんど症状がありません。大腸がんになる手前、ポリープの状態でも便潜血検査が陽性になることがあります。この場合だと多くは内視鏡で切除が可能です。



**大腸がん検診で引っかかったら放置せず、精密検査を受けましょう。
便潜血検査が陰性でも、気になる症状があれば受診しましょう。**

堺市の大腸がん検診は、40歳以上の市民が対象で、令和8年度は自己負担金なしで受診することができます。

2日分の便を指定の容器に採取して提出する簡単な検査です。（写真はイメージです）



お気軽に医師・看護師までご相談ください。